

- 調査期間 2024年1月～3月実績 2024年4月～6月見通し
- 調査時点 2024年3月
- 調査対象 西濃を中心とした地域の当金庫取引先事業所
- 調査方法 アンケート調査
前期(3ヶ月前)・前年同月(12ヶ月前)とを比較した質問を実施。
- 回答企業数 575 (回答率 95.8%)
- 調査結果

回答企業の内訳						
製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	合計
197	38	105	91	122	22	575

対象企業の地域					
大垣市	瑞穂市	本巣市	海津市	養老郡	
236	20	72	16	40	
不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	その他	合計
28	50	92	13	8	575

景況の状況と今後の見通し	
全産業総合	<p>▶概況 全産業の3か月前との比較で見た業況判断DIは、3.7となり前期3.6と比べ0.1悪化した。業種別の業況では、製造業、卸売業、サービス業は前回調査より悪化した。小売業、建設業、不動産業については厳しい状況になった。</p> <p>全産業総合の個別項目については、生産・売上DI(前期8.5→3.3)、収益DI(前期▲5.4→▲3.1)、資金繰りDI(前期▲6.3→▲7.2)と、生産・売上、資金繰りの項目については悪化、収益についても前期より悪化傾向にあるが悪化幅は小さい。物価高の影響が引き続き売上、収益、資金繰りに影響している状況が窺える。全産業総合における今後3か月の予想では、業況、生産・売上、収益は悪化傾向にあるが、資金繰りについては悪化の見通しである。設備投資の今後の実施予定については2.0%と前期1.6%より増加見込み。設備導入における目的については、「合省力化」が最も多く、燃料、光熱費高騰や、人手不足に対して、設備導入による解決を検討している状況が窺える。</p>
製造業	<p>▶概況 製造業全体の業況判断DIは8.1と前期より1.5悪化した。今後の見通しについても9.6と悪化傾向にて推移している。一方で製造業内での今期業況判断DIは、衣服その他の繊維(前期▲11.1→33.3)、金属プレス・メッキ(前期0.0→7.7)は大幅な上昇に対し、食品製造(前期17.6→0.0)と大幅に低下し製造業内においても業況について大きな差がある事が窺える。</p> <p>▶製造業コメント ・原材料価格の高騰についてのコメントが多く見受けられたが、取引先との交渉により徐々に価格転嫁ができてきているとのコメントも多数見受けられた。原材料高騰に対応する対策を積極的に行っていることが窺える。 ・受注については、安定してきたとのコメントも見受けられた一方、人材について、人手不足などの人材不足に対するコメントも多く見受けられた。特に従業員の高齢化と若手従業員の不足という経営上の問題に対して若手の採用・育成が必要となっている。</p>
卸売業	<p>▶概況 卸売業の業況判断DIは▲10.5と前期▲13.2より悪化した。今後の見通しについては、▲15.8と悪化傾向にあると見込んでいる。項目別では、生産・売上DIが前期▲2.6、今期▲13.2と悪化傾向。今後の見通しについては▲13.2と同水準が続く見通し。収益については前期▲13.2、今期▲10.5と悪化傾向にあるが、今後の見通しについては、▲21.1と厳しい状況が続く見通しである事が窺える。</p> <p>▶卸売業コメント ・インバウンド需要により、売上は増加している一方で、仕入価格の高騰や運賃の値上げ等による利益率低下のコメントが見受けられた。また、能登半島沖地震の影響により、物流が停滞したとのコメントも複数見受けられ、震災の影響が西濃地方まで及んでいることが窺えた。 ・今後の業況は不透明との先行きに対する不安のコメントが多数見受けられ、業況DIの今後の見通しの結果について裏付ける結果となった。</p>
小売業	<p>▶概況 小売業の業況判断DIは▲1.0と前期1.9より悪化した。今後の見通しについては3.8と悪化を見込んでいる。生産・売上DIは、前期8.5、今期1.9、今後の見通し5.7と悪化が見込まれる。コメントからは、売上はコロナ禍前の水準まで回復しているとのコメントがいくつか寄せられた。一方で仕入れ値が高騰しているコメントも見受けられ、原材料の高騰の影響が幅広い業種に影響を与えていることが窺えた。</p> <p>▶小売業コメント ・オンラインでの販売が加速している。オンライン販売では、顧客のニーズを正確に把握することが必要などのデジタル化のコメントや顧客のニーズが細分化しているとのコメントが複数見受けられ、今後の小売業について、顧客のニーズに合わせた個別にカスタマイズした商品の販売が必要となることが窺える。 ・今後も利益率が低下することを踏まえ、効率性と生産性の向上による利益率の上昇を目指すコメントも見受けられた。</p>
サービス業	<p>▶概況 サービス業の業況判断DIは5.5と前期▲2.2より悪化した。今後の見通しについては▲2.2と悪化が予想される。項目別では、生産・売上DIが前期7.6、今期6.6と悪化。今後の見通しについても0.0と悪化が続く見通し。収益DIについては、前期▲2.2、今期▲4.4と悪化。今後の見通しも▲6.6と更に悪化を見込んでいる。コメントからは、イベント等は復活しているが、競争が激化しているとのコメントが見受けられた。</p> <p>▶サービス業コメント ・効率性やコスト削減の観点から、単純作業やルーチン業務の自動化を検討しているコメントが見受けられ、付加価値の高い業務について、従業員に集中させる意向が窺えた。一方で人材不足のコメントも多く見受けられ、人材確保について引き続き厳しい状況が続くことが懸念される。 ・持続可能性や社会的責任の観点に対するコメントが見受けられ、サービス業についても環境への配慮や社会貢献活動への取り組みを重要視していることが窺えた。</p>
建設業	<p>▶概況 建設業の業況判断DIは5.0、前期8.9と悪化傾向。今後の見通しについては11.6と悪化を見込んでいる。項目別では、生産・売上DIが前期10.6、今期▲0.8と悪化。今後の見通しは7.4と悪化が見込まれる。収益DIについては前期5.7、今期▲1.7と悪化、今後の見通しについては8.3と悪化を見込んでいる。コメントからは、公共工事減少における競争の激化、人手不足の声が見受けられた。</p> <p>▶建設業コメント ・人材不足については、従業員の高齢化による技術熟練者の減少、若手人材の不足についてのコメントが見受けられた。一方で、人材確保に向け教育・訓練プログラムの充実を図り、働き方改革や働きやすい環境の整備を進めているとのコメントが見受けられ、人材の確保・流出の阻止についても対応していることが窺える。 ・環境配慮や再生可能エネルギーの活用等の検討についてのコメントも見受けられ、建設業においても持続可能性の観点に注目していることが窺える。</p>
不動産業	<p>▶状況 不動産業の業況判断DIは▲4.5と前期9.1より悪化。今後の見通しは▲4.5と横這いを見込んでいる。項目別では、生産・売上DIが前期9.1、今期0.0と悪化。今後の見通しについては4.5と回復を見込んでいる。収益DIについては、前期0.0、今期▲9.1と悪化。今後の見通しは4.5と回復を見込んでいる。コメントからは、資産の一部として都市部の不動産を保有したいとの観点から、今後需要が増加が予想されるとのコメントが見受けられた。一方で、郊外では過疎化や空き家問題などが深刻化する見込みとのコメントも見受けられ、今後は都市部と郊外での不動産格差が広がることを懸念していることが窺える。</p> <p>▶不動産業コメント ・建設資材の高騰及び人手不足による人件費の高騰に伴い、不動産価格も増加傾向にあるとのコメントが見受けられた。原材料の高騰と人手不足が不動産業にも影響を与えていることが窺える。</p>

図表1 景況DI値

業種	業況			生産・売上			収益			資金繰り		
	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し
全産業総合	3.6	3.7	4.9	8.5	3.3	5.6	▲5.4	▲3.1	0.2	▲6.3	▲7.2	▲7.8
製造業総合	6.6	8.1	9.6	9.6	8.6	10.7	▲2.1	2.6	7.7	▲5.6	▲5.7	▲6.2
食品製造	17.6	0.0	0.0	5.9	0.0	▲6.7	▲5.9	▲20.0	▲20.0	5.9	▲6.7	▲6.7
衣服その他繊維製品	▲11.1	33.3	16.7	▲11.1	33.3	16.7	▲22.2	8.3	16.7	▲11.1	0.0	0.0
窯業・土石	44.4	0.0	0.0	44.4	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	▲22.2	0.0	0.0
金属製品	10.0	11.8	17.6	16.7	11.8	11.8	▲3.3	5.9	0.0	▲6.7	▲11.8	0.0
金属プレス・メッキ	0.0	7.7	0.0	5.3	15.4	15.4	▲15.8	7.7	15.4	5.3	▲7.7	▲15.4
その他製造業	▲6.7	▲10.3	0.0	▲3.3	7.7	12.8	▲13.3	▲12.8	▲7.7	▲13.3	▲17.9	▲17.9
卸売業	▲13.2	▲10.5	▲15.8	▲2.6	▲13.2	▲13.2	▲13.2	▲10.5	▲21.1	▲5.6	▲5.6	▲5.6
小売業	1.9	▲1.0	3.8	8.5	1.9	5.7	▲3.8	▲7.6	▲1.0	▲12.6	▲12.7	▲9.8
サービス業	▲2.2	5.5	▲2.2	7.6	6.6	0.0	▲2.2	▲4.4	▲6.6	▲3.3	▲7.7	▲7.7
建設業	8.9	5.0	11.6	10.6	▲0.8	7.4	5.7	▲1.7	8.3	▲3.3	▲3.3	▲3.3
不動産業	9.1	▲4.5	▲4.5	9.1	0.0	4.5	0.0	▲9.1	4.5	0.0	0.0	0.0

今後の見通しは今期DI値と比較してDI値がプラスの場合は▲ マイナスは▲ 0は□ で表記。

図表2 設備投資の状況

業種	設備投資			
	今期実施割合	投資の内訳(最も多いもの)	設備の目的(最も多いもの)	今後の実施予定
全産業総合	1.6%	機械の新・増設	合省力化 拡販投資	2.0%
製造業総合	3.6%	機械の新・増設	拡販投資	2.5%
卸売業	0.0%	—	—	0.0%
小売業	0.0%	—	—	1.0%
サービス業	0.0%	その他	拡販投資	3.3%
建設業	1.7%	土地更改	合省力化	1.7%
不動産業	—	—	—	—

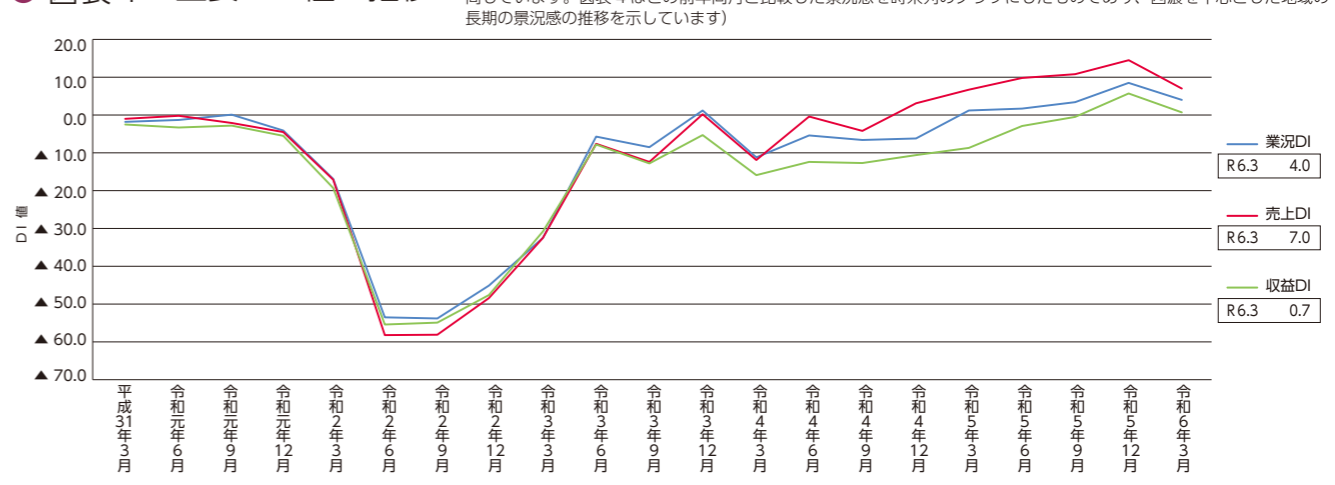
(今後の実施予定は今期実施割合と比較して増加する場合は▲ 減少する場合は▲ 変わらない場合は□ で表記)

図表3 経営上の問題点

経営上の問題点							
売上・受注の減少		人手不足		競争の激化		その他	
今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較
40.3%	▲	39.5%	▲	15.7%	▲	4.7%	▲
39.6%	▲	39.1%	▲	7.1%	▲	2.5%	▲
44.7%	▲	39.5%	▲	21.1%	▲	5.3%	▲
49.5%	▲	21.9%	▲	23.8%	▲	9.5%	▲
40.7%	▲	42.9%	▲	25.3%	▲	4.4%	▲
30.3%	▲	53.3%	▲	12.3%	▲	3.3%	▲
50.0%	▲	36.4%	▲	22.7%	▲	9.1%	▲

(前期との比較は前回調査と比較して増加している場合は▲ 減少している場合は▲ 変わらない場合は□ で表記)

図表4 主要DI値の推移



(調査の分析は3か月前と比較した回答結果を中心におこなっています。しかし3か月前との比較は季節的な要因を含んでおり長期の景況感の変化を見るため、業況・売上・収益の3項目については、前年同月と比較してどうだったのかを質問しています。図表4はこの前年同月と比較した景況感を時系列のグラフにしたものであり、西濃を中心とした地域の長期の景況感の推移を示しています)